

第二節 指導方法・教育環境

第五項 地域生活支援について

1. 長期休業中、土曜日、日曜日、放課後

自閉症のある子どもの保護者は、長期休業中や土曜日、日曜日、放課後の過ごし方に悩んでいることがあります。特に学齢期の自閉症のある子どもはよく動き回ったり、夜眠らないなど睡眠に問題を抱えていたりすることもあります。これらの問題は、日中の活動から影響を受けることも少なくなく、学校が休みの長期休業中をきっかけに生活のリズムが乱れることもあります。保護者の多くは、日中に適度な運動や、頭を使う活動を行うことが、落ち着いて過ごしたり、良好な睡眠を確保したりすることにつながることを理解されています。

しかし、これまでは自閉症が理解されにくい障害であること（こだわり、奇声、コミュニケーション、感情の表現など）から、ボランティアなど、周囲の人の協力がなかなか得られない場合や、活動の見通しがはっきりしないものには参加したくない傾向が自閉症の子どもにあるなどの理由から、保護者は「休日や長期休業中にどう過ごしていいかアドバイスがほしい」という希望をもっていることが多くあります。また、保護者だけががんばっても、様々な困難が生じているのが現状です。学校が地域と自閉症のある子どもをつなぎ、ボランティアや地域資源のコーディネート役を担う必要があります。

2. 活動の場の提案と支援プログラムの提案

学校が休日や長期休業中に行う支援には大きく分けて二つのかたちがあります。一つは、サークル活動やプール開放、サマースクールなど、学校や教師が中心になったり、他の団体や保護者と協力したりして企画・運営する等の活動の場を提案する支援のかたちです。もう一つは、個別の教育支援計画をもとに、休日や長期休業中の過ごし方を意識した指導を行ったりするなど、支援プログラムを提案する支援のかたちです。

表1 二つの支援のかたち

活動の場を提案	支援プログラムを提案
クラブ活動やサマースクールなどを学校やPTA、教師が中心となって運営します。その際、地域の行政や支援団体、ボランティア団体などと協力して運営を進めるようにします。ボランティアや地域資源の開拓、紹介、斡旋も学校のセンター的機能の重要な役割の一つです。	個別の教育支援計画を作成し、個々の教育的ニーズに基づいた地域の資源を調査、明記します。 個別の指導計画には、休日や長期休業中の過ごし方を意識したプログラムを指導の中に取り入れたり、家庭生活で使えるようなプログラムを提案したりします。

第二節 指導方法・教育環境

3. 活動の場を提案する支援のかたち～クラブ活動やサマースクール～

現在、全国の養護学校を中心に、クラブ活動などの放課後支援や、サマースクールなどの長期休業中の支援などが行われています。養護学校の施設設備や人材を活用して、地域の住民やボランティア、行政と連携協力し、長期休業中には約7割の学校が、放課後や土曜日、日曜日には5割以上の学校がすでに様々な支援活動に取り組んでいます。その状況を「学校の専門的機能を生かした、家庭・地域社会の支援体制の推進」に関するアンケート調査（国立久里浜養護学校2002）より紹介します。

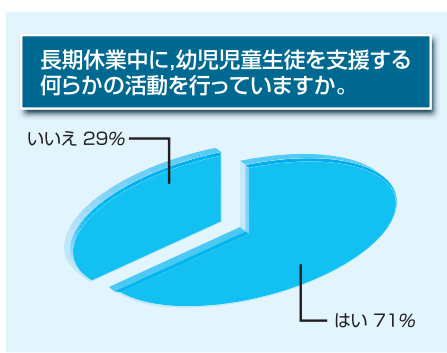


図1 長期休業中の支援

「あなたの学校では、長期休業中に居住地でのサービスの紹介を含め、幼児児童生徒を支援する何らかの活動を行っていますか。」という質問に対し、532校、71%の学校が「はい」と答えています。

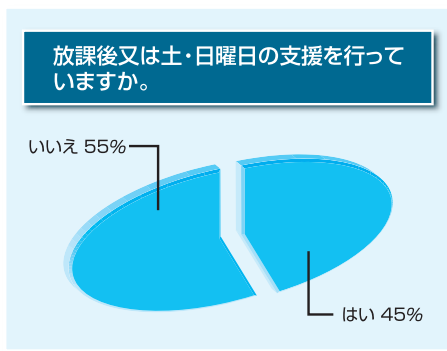


図2 放課後又は土・日曜日の支援

次に、「あなたの学校では、スポーツサークル等の放課後又は土曜日・日曜日の支援を行っていますか。」という質問に対しては、342校、45%の学校が「はい」と答え、55%が「いいえ」と答えています。

長期休業中の支援に比べ、放課後又は土曜日・日曜日の支援の実施が下回っています。

また、長期休業中の支援には、プール開放やサマースクールなどがありますが、最近では、地域住民やボランティアの協力を積極的に募って、センター的機能の充実を図る取り組みがされています。自閉症の人たちは特に生活のベースづくりが大切であるため、持続的な場の提供が期待されています。本人や保護者が慣れ親しんだ学校へ、必要に応じて毎日通えるような、無理のない継続的な場の提供が求められています。できるならば、同世代の子どもたちとの交流や、地域住民を中心としたボランティアの開拓、普段できないような体験活動等を組み入れ、地域や保護者と協力しながらハード面とソフト面の協力を学校が担うべきだと考えています。

第二節 指導方法・教育環境

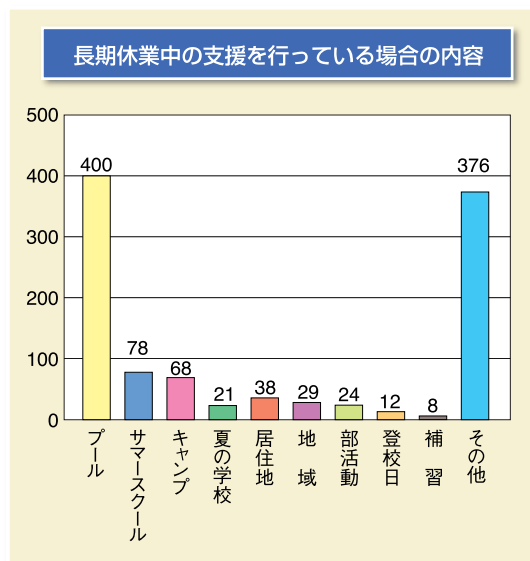
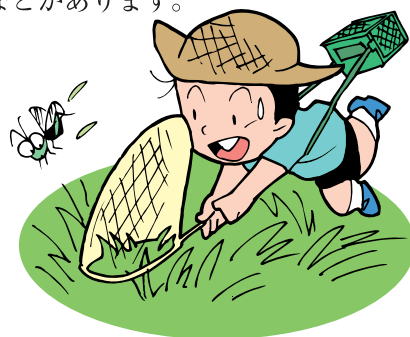


図3 長期休業中の支援の内容

長期休業中の支援を行っている場合の内容についてはプールがたいへん多く、サマースクールやキャンプなどを大きく上回っています。長期休業中の支援を行っている学校のうち、8割近くが、プール活動を含んだ支援を行い、長期休業中の支援は、プール活動のみである学校もあります。プール活動以外では、サマースクールやキャンプなどがあります。



4. 支援（指導）方法を提案する支援のかたち～家庭生活を改善するツールの提案～

知的障害養護学校では以前から生活に役立つための教育内容の指導に取り組んでいますが、自閉症のある子どもたちは、般化に困難性がある（学校でできたことを他の場面で応用することが難しい）ことから、学校で行ったことが、すぐに生活に結びつかないことがありました。最近では、実際の登下校場面を使って指導した事例や、家庭での過ごし方について、家庭訪問時の観察や保護者から聞き取り調査した上で、お手伝いが実際にできるように具体的な支援方法を提案した事例が報告されています。家庭生活で使えるようなプログラムを提案する際には、保護者やボランティアなどの支援者とよく話し合い、情報を交換するとより良い支援（指導）方法を提案できると考えています。（図4参照）

今後は、行動上の問題への支援などの緊急を要することと合わせて、専門機関などと連携し、より良い支援が行えるような体制を作る必要があると思います。

事例

入学時のA君は、下校後、ビデオを見る以外は、居間の壁を蹴ったり、ベランダのホースで水をまいたりする行動が起こり、保護者は対応に苦慮していました。教師と保護者で話し合った結果、何もすることがない時間ばかりではなく、お手伝いや勉強の時間を設けて、スケジュールにそって活動することで、このような行動を減らせるのではないかと考えました。その結果、A君はスケジュールを自分で確認して積極的に活動するなど、以前

第二節 指導方法・教育環境

のような行動は、一切しないようになりました。

6月になり、スケジュールの中の「お風呂掃除」のお手伝いで、スポンジでバスタブの内側を磨く際に、きれいに磨くことができていないことについて話し合いました。その結果、上から磨くことで、スポンジに付けた洗剤が流れ落ちてしまい、下の方を磨かなくてすませてしまうのではないかと考えました。そこで、以下のような課題分析シートを作成し、保護者に記録していただきました。

*課題分析：一連の作業（行動）を、細かい行動の要素に分割し、それぞれの要素について評価する。その上で、一連の作業ができない（あるいは不十分な）要因を取り除き、指導の手順や手続きを探し出すための分析方法。

図4 お風呂掃除のお手伝いをするための「課題分析」シートの例

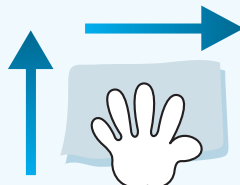
「課題分析」シート 〈○○○○〉

指導目標 お風呂掃除（バスタブ（内側）をスポンジで磨く）

記載者 _____ 平成15年 6月 日 : ~ : Ver.2

活 動	場 所	評価	特記事項
1. 洗剤をつけたスポンジを持ってバスタブの中へ入る(パンツで)。	お風呂		
2. 足下の面を右から左, 右から左, 前から, だんだん足下に近づいて半分磨く。	お風呂		
3. 体を反転して(逆を向いて)足下の面を右から左, 右から左, 前から, だんだん足下に近づいて半分磨く。	お風呂		
4. 蛇口下側面から, 下から上, 下から上に, 向かって左から磨いていく。	お風呂		
5. 四面を磨く。	お風呂		
6. 洗剤が全てのバスタブ(内側)についているかを確認する。	リビング		
7.			
8. 次のステップへ			

(側面の磨き方)



洗剤が流れて、磨いたことを確認しやすくするために、まずは足下の面、次に側面は、下から上、左から右。四面をこの順で行う。

5. 学校と家庭では全く違う行動を示す

先にも述べましたが、自閉症のある子どもたちが特に地域生活支援が必要な理由には「般化の問題」が挙げられます。自閉症のある子どもたちは、学校では問題なくできることであっても、場所が変わっただけでできなくなることが障害の特徴の一つとしてあげられます。そのため、できる限り学校は家庭を、家庭は学校を想定してプログラムを組むことが大切です。その上で、お互いが協力しあえるような関係を早期に構築し、それぞれの場所でできるようになったことや、取り組んだことを、登校時や下校時、連絡帳等を使って具体的に伝え合い、自閉症のある子どもの成長・発達を支援します。

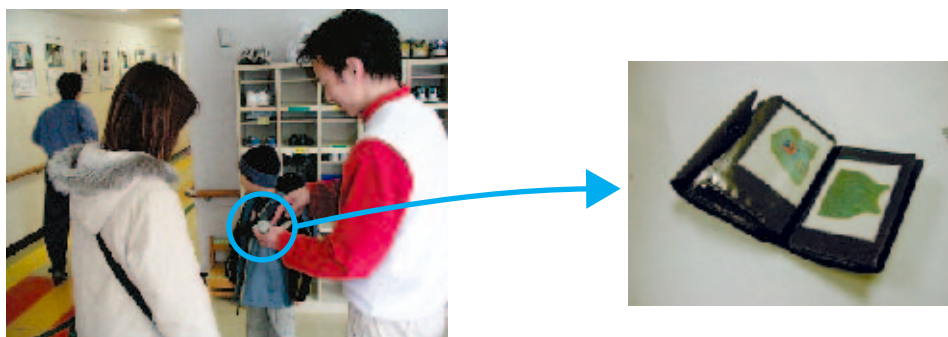


写真1 「コミュニケーション支援ブック」の改善点などについて登校時に情報交換する保護者と教師

また、生活の質を高めるには、レスパイトサービスの場やスイミングスクールなどの社会資源が必要になります。そのため高等部までは学校、それ以降は就労先や支援機関などの支援の中心となる機関が保護者と協力して有効な資源を探したり、ボランティアや地域の人々との関係を構築したりする必要があります。

参考文献

国立久里浜養護学校研究部（2002）「学校の専門的機能を生かした、家庭・地域社会の支援体制の推進」に関するアンケート調査.平成14年度重度・重複障害児教育実践研究協議会資料及び要項.

北海道教育大学教育学部函館校サマースクール実行委員会（1997-2003）ひろがれ！サマースクールーサマースクールin函館実施報告書ー.サマースクールin函館実行委員会.

国立特殊教育総合研究所文献

東條吉邦（1991）自閉症児の社会的自立へ向けての学校教育と家庭生活,特別研究報告「自閉児の追跡調査による教育の内容・方法に関する研究」, 47-50.